

(第2号様式)

神奈川県教育委員会教育長 殿

平成26年4月10日

県立 上溝高等学校長

平成26年度学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
教育研究の推進課題を踏まえ、生徒の実情やニーズに応じた学習を展開する。	①補習の実施、家庭学習の習慣づくりにより、個に応じた学習機会を増やす。 ②読書習慣づくりのための読書指導の一層の充実と図書館利用のさらなる推進。 ③新学習指導要領の完全実施に向けたカリキュラム、授業法の改善。 ④各種検定による資格取得の奨励、新聞を活用した授業の推進を通して、英語や国語等の能力向上を図る。	①計画的な家庭学習ができるよう課題の提示ができたか。生徒個々で管理できるように工夫したか。組織的・効果的な補習が実施できたか。 ②図書館の利用が生徒一人当たり8冊(昨年度概算)を超えたか。 ③学習指導要領に基づいた授業をすすめるための会議や授業改善を実施できたか。 ④組織的に取組み、効果的に利用することができたか。	①1年生対象に、一学期中間テストに向けて、家庭学習の計画・点検表を作成させた。また、基礎力、応用力の強化を図るため夏期講習を開講したところ、参加人数は昨年より増加した。 ②新着図書を紹介案内などを配布し図書の利用を促したが、昨年度並みの利用状況であった。 ③授業改善に向けたプロジェクトチームを立ち上げ研修会を行い、学習指導要領で求められる「生きる力」を高める授業の取組みを行った。 ④進路指導に絡めて英検、漢検、数検の案内を行い、学校全体で受検に取り組むよう促した。	①家庭学習の時間が、年度当初に比べ低下する傾向にある。定期テスト前を除いて、まったく勉強しない生徒が半数以上に増加している。次年度は総合的な学習の時間をキャリア教育を軸に推進し、学ぶ意義を認識させ自主的に取り組む意欲の向上を目指す。 ②スマートフォンの普及により、資料をカメラで記録する傾向が強くなっている。また、スマートフォンのゲームの手軽さから、マンガですら読まない生徒も出てきており、図書館の利用が進まない。次年度は図書館が利便性の高い1階に配置される。さらなる利用を呼びかけたい。 ③授業改善の方向性は共有化できてきた。取組みの第一歩としてプロジェクトメンバーによる授業実践を行い、教員の研究授業とした。具体の授業改善の手法について授業実践を通して確立していく必要がある。 ④数検は受検希望者が集まらず、校内での実施はできなかった。引き続き受検を呼びかけたい。	(学校評議員) 教員間で宿題等の出し方、家庭学習のさせ方等の話し合いをするとともに、今以上に宿題を出してよいのではないか。学習の習慣化が大切である。 生徒達が自分達で授業を作るような仕組みを仕掛けてほしい。 自立心を育て、なぜ勉強することが必要なのか考えさせるような工夫が必要。放課後の活動の工夫を通して自分達で進んで様々な活動をするための環境づくりが必要。	(学校評価) 補習等実施できたが家庭学習については十分な成果を上げられなかった。 読書習慣が成立しておらず図書利用が進まなかった。 プロジェクトチームを中心に積極的に取り組めた。 検定取得への意欲が弱く受検者が限られてしまった。 (改善方策) キャリア教育を充実し学習意欲の形成を促進する。 授業などを通じ書籍の利用を促す。 チーム以外の教員にも取組みを広げる。 資格取得のメリットを伝え意欲を引きだす。

<p>生徒一人ひとりの適性や状況に応じた指導とともに学校行事や部活動の活性化により活気と安心のある教育活動をより一層展開する。</p>	<p>①文化祭・体育祭等の学校行事において、生徒が自ら企画・運営し、一定の達成感を得られるような支援。 ②仮設校舎における文化祭・体育祭等の学校行事の実施時期・形態の検討及び部活動の活動場所の確保に関する支援。 ③部活動紹介の形式の刷新による、新入生の加入率の向上及び部活動活性化の推進。 ④人権教育を推進し、いじめ防止につなげる。相談体制の充実による安心な学校生活を送るための支援。 ⑤定期的な交通安全指導、身だしなみ指導、授業規律指導を通し生徒のマナーやモラルの向上に向けた取組み。</p>	<p>①生徒の実行委員会を支援し、主体的な活動ができたか。 ②仮設校舎における行事を実施するにあたり、安全面の検討及び対応が充分だったか。 ③部活動の加入率が前年度と比してアップしたか。 ④高校生活に関するアンケートやスクールカウンセラーを活用し、相談活動が充実して展開できたか。 ⑤身だしなみや交通安全に対して定期的に指導し、改善がみられたか。</p>	<p>①体育祭は実行委員会を中心に計画を立て、実施した。文化祭は、生徒会本部を中心に、実行委員会と協力して計画・実施した。 ②仮設校舎であることを配慮し、チケット制で入場者数を管理して安全に実施できた。 ③4月の新入生歓迎会で、HANDSIGNの講演を盛大に行い部活動の加入率アップを試みた。上高生徒議会により、生徒会を中心に、学校のルールの改善を試みた。 ④学校生活アンケートと三者面談週間の担任による聞き取りでいじめの情報収集を行い、また保健室にて養護教諭やスクールカウンセラーによる情報収集を行った。4月から2月のスクールカウンセラーの来校は10回あり、計36件の相談を行った。 ⑤月1回の身だしなみ指導と交通指導を実施した。服装については制服着用の定着が見られた。また、6月より下校指導を行い、下校時の交通安全を図った。</p>	<p>①今年度は文化祭と体育祭が続いたため準備期間が短く、生徒の体力的な負担が大きかった。来年度は、体育祭は6月、文化祭は9月に実施する。 ②来年度は新校舎に移るため、新たな文化祭規約の作成を行う。また、西棟の耐震工事があり、引き続き安全面を考慮した開催を検討していく。体育祭は、引き続きグラウンドが使用できないため、外部の体育施設を利用して行う。 ③昨年度並みの部活動加入率だった。新校舎で更に充実した活動ができるように検討する。引き続きグラウンドが使用できないため、運動部の練習場所の確保が必要である。 ④生徒会を中心に身だしなみへの意識が高まった。上高生徒議会を学校に定着させ、更なる生徒会の活発化を目指す。 ④アンケートや面談週間に頼り切らずに、日頃の声かけやコミュニケーションが大切である。今回はいじめの事案は確認されていないが、いじめにつながりかねない行動も見られる。今後も引き続き情報収集に努め、いじめ防止に努める。 ⑤制服着用は定着しているが、防寒対策でのカーディガンやジャージの着用が見られる。状況に応じて指導する必要がある。</p>	<p>(学校評議員) 生徒会が自分達の手で様々な活動をし、上溝高校を良くしようとしているのが良い。 勉強でも行事でも部活でも、一生懸命やることで自分が感動する。そのような体験を多くさせてはどうか。 先輩がしっかりと後輩を指導できるよう先輩・後輩のあり方等の講習会を企画し益々の部活動の活性化を望む。 スクールカウンセラーが学校にいて生徒は安心する。スクールカウンセラーによる相談体制の充実を望む。 交通安全についても、交通委員が一般生徒を指導するといった生徒自ら取り組む仕組みを工夫してほしい。</p>	<p>(学校評価) 生徒主体の生徒会活動や部活動への積極的な参加を促し、活気ある教育活動を展開することができた。文化祭は安全に、体育祭は実行委員会を中心に自治運営できた。 登校時、及び下校時の自転車乗車指導により交通事故防止に積極的に取り組むことができた。また、月に1回交通指導を行い、生徒の状況を把握するとともに、安全指導ができた。 (改善策) 文化祭は新校舎での新たな企画が必要である。体育祭は6月開催に変更される。混乱が起きないように準備を進める必要がある。 交通指導は、定期的に継続的に指導する必要がある。更に啓発活動を続けるとともに、生徒の自主性を促し、より安全・安心できる学校づくりに取り組む。</p>
---	---	---	--	---	--	--

<p>組織的な授業改善により一層取り組み、学習内容を明確化した学習指導や指導方法の工夫・改善により、基礎学力の定着、応用力の伸長を図る。</p>	<p>①テーマを明確にした研究授業や公開授業の実施と、「生徒による授業評価」を活用したより一層の授業改善。 ②保護者・学校評議員・地域住民の参加による授業改善の推進。 ③各教科の指導を通じた自己表現能力のさらなる育成。 ④伝統文化教育の実践校として、「郷土史かながわ」を軸に、探求・発表に主眼をおいた授業展開の研究を進める。 ⑤組織的な獲得型授業(わかる＝できる授業)の推進と併せ、生徒の授業準備や集中した授業態度等の授業規律の確立を図る。</p>	<p>①テーマを踏まえた研究授業ができたか。生徒の授業満足度が前回より増加しているか。 ②保護者・学校評議員・地域住民の公開授業参加状況と評価。 ③自己表現発表会の組織的な展開など、授業を含め発表の機会を複数回設定できたか。 ④指導方法の工夫など、研究が進められ、共有されたか。 ⑤職員、生徒への周知が適切に図られたか。指導により改善がみられたか。</p>	<p>①授業改善プロジェクトチームを組織し、問題点を洗い出し、達成感・充実感を与え意欲を引き出す授業づくりを目標とした。また改善の手立てとして「生徒による授業評価」をもとに各科目の課題点とその改善策を検討し、授業実践を行った。 ②11月の学校へ行く週間授業参観を行い、保護者等の参加を得た。 ③総合的な学習の時間や各教科で、調べ学習の発表、レポート、スピーチなどを行い、学年末には自己表現発表会を行った。 ④生徒の活動を積極的に取り入れた授業づくりを進めた。 ⑤毎月の授業規律目標を設定し、学習に向けての意識づくりを図った。</p>	<p>①授業改善の趣旨は研修会の報告などで職員の共通理解を図ることができた。チームのメンバー中心であるが、授業実践の中でアクティブラーニングの取組を行った。 ②公開授業を行い、教員ばかりでなく、保護者等からの意見も聞き、授業改善へ活用した。 ③教師の授業の実態に応じてさまざまな試みを行った。次年度以降も自己表現ができる授業の企画を進めたい。 ④生徒の探究活動・発表が行えるよう、担当者会議を定期的に持ち授業内容の企画を行い、生徒の興味関心や取組意欲を高めることができた。 ⑤授業規律を保つためには、学習意欲の向上が必要であるが、学習への意識がまだ十分とは言えない。次年度はさらに、「わかる＝できる」授業を進め、生徒の意欲を引き出し、規律ある授業態度へとつなげたい。</p>	<p>(学校評議員) 生徒による授業評価について、7月の1回目よりも12月の2回目の評価の結果が高くなっているのは良い。</p>	<p>(学校評価) チームを中心に取組を進めることができた。 公開授業で保護者の意見を聞くことができた。 学習成果の発表を行い、生徒の学習への意識を高めることができた。 発表活動など生徒が意欲的に取り組めた。 授業規律の目標に従い、生徒に学習意識を持たせる効果が見られた。 (改善方針) 次年度はこの活動を教員全体へと広げたい。 生徒の授業への集中や意欲を高めるために、「わかる・できる」授業への改善がさらに必要である。</p>
<p>生徒の適性に応じたキャリア教育を充実させ、社会生活・職業生活に必要な諸能力をより一層身につけさせるとともに、進路指導システムのさらなる充実を図る。</p>	<p>①各学年、教科、特別活動等全ての教育活動において、「キャリア教育実践プログラム」に基づく計画的・体系的教育を実施。 ②長期休業中及び授業中に継続したインターンシップを計画し、社会性や責任感を身に付けさせる。 ③長期休業中及び授業中に実施する進路・進学補習において、講座名や講座内容をより分かりやすく提示し、個々の生徒の進路希望に応じて受講できるようにする。 ④民間教育機関との連携を強化するとともに、進路指導システムを活用した進路ガイダンスを充実する。 ⑤シチズンシップ教育研究推進校として、議会傍聴・裁判傍聴・租税教育を計画的に実施し、積極的に社会参加するための能力・態度を育成する。</p>	<p>①個々の生徒の進路実現に資するデータの集積や活用を推進するとともに分析内容の共有化が図られたか。 ②組織的にインターンシップを実施し、生徒の社会への意識を高めることができたか。 ③個々の生徒の進路実現に向けて、効果的に補習が実施できたか。 ④スタディサポートやネットパスⅡの適正な運用をはかり、客観的データに基づいた分析内容の共有化、進路指導が図られたか。 ⑤議会傍聴・裁判傍聴・租税教育を計画通り実施し、生徒の社会への意識を高めることができたか。</p>	<p>①スタディサポートを中心に生徒の分析会、教員の研修を開催することができた。 ①進路実現のための生徒へのガイダンスを適宜開くことができた。 ②夏休みに延52人のインターンシップの参加者があった。去年よりも大幅増となった。単位認定者は19人であった。 ③補習受講者人数が211人となり、去年と比較して、大幅増となった。 ④ネットパスⅡの環境設定が整い、担任が一般入試に向けた指導ができるように整備した。 ④進路診断カルテを作成し、各担任に提供し、面談資料とすることができた。 ⑤租税に関する講演会と作文指導を行った。 ⑤2年生に議会傍聴を実施した。</p>	<p>①分析会・研修会を実施することはできたが、それ以降の改善という面で課題が残る。キャリア教育の充実のために、総合的な学習の時間との連携を図る。 ②インターンシップの意義をPRする活動を充実させる。補習を実施するうえでの環境を整えることで、補習受講者を増やすようにする。 ③補習希望者と受講者では、目的意識にまだかなりの開きが見られる。 ④担任が一般入試の指導ができるように、指導システム等の環境を整える。一般入試の進学指導は時間的な余裕がなく、効率よく実施するのが難しい。ベネッセのファインシステムの普及を図る。進路診断カルテの内容の充実をはかる ⑤多数のイベントがあり回数を重ねる毎にイベントをこなすだけにありがちである。イベントの精選を図るなど効果の検証を進めたい。</p>	<p>(学校評議員) 卒業生の良い話を聞かせる機会を設けてはどうか。 補習の達成度・生徒の満足度はどうか。</p>	<p>(学校評価) スタディサポートは一定の成果は上がっているが、もっと活用していくことが必要である。 インターンシップは実施者数からみて、良くやっている。 ネットパスⅡは担任が使えるようにはしたが、うまく運用されなかった。 シチズンシップ教育としての年金教室は大変よかった。 (改善方針) スタディサポート研修会への参加数の増加を目指す。 ベネッセのファインシステムを積極的に活用し、進学指導に役立てる。</p>

<p>地域との連携・協働をより一層推進するとともに地域等の教育力を活かした学校づくりを展開する。</p>	<p>①ホームページの充実を図り、地域や中学生に分かりやすくスピーディーに情報提供を行う。 ②学校説明会、中学校訪問等を通じた広報活動の一層の充実。 ③自治体、近隣小中学校、NPO等と連携した地域貢献活動を展開するとともに、通学路及び学校周辺の清掃活動、様々なボランティア活動を計画・実施する。</p>	<p>①ホームページのアクセス件数及び効果的な情報発信ができたか。 ②説明会の参加状況、効果的な情報発信ができたか。 ③地域のニーズに応じた連携活動や清掃活動、ボランティア活動が展開できたか。</p>	<p>①行事や校舎建替工事など、外部の方がほしい情報のタイミングに合わせ、頻繁にホームページを更新し、情報提供を行った。 ②中学校等に出向き、生徒対象に説明会を実施した。学校説明会は合計3回実施し、多くの中学生及び保護者に参加していただいた。 ③全学年が地域清掃活動を、福祉委員がデイサービスセンター等でボランティア活動を実施した。</p>	<p>①更新が頻繁になると、担当職員が多忙化する。多くの職員がホームページの更新を行える知識を持つ、作成しやすい環境をつくるなどの対策が必要と考える。 ②中学校での訪問説明会でのパンフレットやチラシについての反応は概ね良好であった。学校説明会の参加者は第1回500名、第2回は700名、第3回は120名であった。アンケートの結果は概ね良好であった。 ③福祉委員、地域清掃活動など計画されたものの参加は多いが、生徒の能動的なボランティア活動にはつながっていない。ホームページ等でも活動の内容を周知する必要がある。</p>	<p>(学校評議員) 学校説明会等により一定の成果が上がっている。引き続き、上溝高校の魅力を伝えてほしい。 小中高の連携を利用したボランティア活動も考えられるのではないかと。</p>	<p>(学校評価) 学校案内の作成や説明会の実施により、中学生に上溝高校を印象づけることができた。 ホームページ掲載記事の更新、印象に残る学校案内の作成や分かりやすい説明会を実施したことで、学校説明会参加者から高評価を得た。 (改善方針) ホームページは閲覧しやすい構成に心がけ、多くの職員がホームページ作成に関われるよう環境を整える。 PTAや同窓会、地域との連携を強め、保護者や地域の力を援用できるように努める。</p>
<p>安全・安心な学習活動のための教育環境の整備をより一層進めるとともに防災、安全教育を充実させる。</p>	<p>①状況に応じた防災訓練を1学期と2学期に1回ずつ行い、日頃からの防災の意識を高める。 ②備蓄を推進し、地域・PTAと連携した防災訓練を実施する。</p>	<p>①生徒一人一人が自らのこととして防災への意識を高めることができたか。 ②地域・PTAと連携し、防災体制の構築が図られたか。</p>	<p>①1学期に地震による火災からの避難訓練を実施し、校舎からの迅速な避難の訓練ができた。2学期には地区別下校グループ毎に各教室等集まり、責任者を決め、短い時間ではあったが、実際に災害が起きた時のような注意が必要であるか話し合いを持つことができた。 ②生徒一人ひとりに1日分の食料と水を備蓄することができた。</p>	<p>①新校舎での学校生活が始まるにあたり、避難の方法を早急に再検討し、避難訓練を早急に実施する必要がある。また、今年度はできなかったが、予告をしない避難訓練を実施する必要がある。地区別下校グループでの避難訓練も引き続き行っていく予定である。 ②1日分の食料と水は引き続き生徒数備蓄する予定である。地域との連携は学校の敷地を地域の防災訓練の際に利用していただく形で実施する予定であるが、生徒も交えての防災訓練の形が取れないか今後検討する必要がある。</p>	<p>(学校評議員) 校舎からの避難については前年度よりも迅速に行われたことや地区別下校グループでの話し合いを行えたことで、生徒の防災への意識は前年度よりは高まったと思われる。 生徒一人ひとりに1日分の非常食が用意でき、最低限の防災体制は整ったと思われる。</p>	<p>(学校評価) 2学期の防災訓練では地区別下校班での防災訓練を実施することができた。同じ地区で集まることにより、防災の意識も高まったと思われる。 生徒一人ひとりに1日分の食料と水を備蓄することができた。 (改善方針) より実践に近い防災訓練を新校舎において実施していく必要がある。新校舎からの避難経路を早急に整えて、早い時期での避難訓練を実施する必要がある。昨年度までのように、迅速な避難ができるような指導を計画する。 来年度以降も生徒一人ひとりに1日分の非常食を整え、さらには地域やPTAとの連携した防災訓練も実施できるように計画していきたい。</p>